

一生懸命、運動に取り組む 子どもの育成

大分県別府市立境川小学校

全校児童数	418名(男子210名 女子208名)		
全クラス数	16	教職員数	39名
体育専科教員訪問学校数			2校
訪問校	別府市立山の手小学校 別府市立南小学校		
体育専科教員名		伊東 雅弘	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆一生懸命、運動に取り組む子どもの育成

体育専科教員が入って2年目。体育の授業は3、4年生に週2時間ずつクラスに入って行く。コロナ禍で、接触、密に気をつけ、工夫しながら、今年も引き続き体育専科教員による系統的な体育学習、日常的な体力づくりを行い、子どもたちが自ら挑む体育を目指し「一生懸命、運動に取り組む子どもの育成」に取り組むことにした。

2 取組の計画

① 体育学習での取り組み

- ・体育専科教員を中心にTT体制で体育学習に取り組む。本務校として2年目なので、いくつかの単元でT1を担当にしてもらい、指導力アップも図る。
- ・授業の流れを示し、子どもに「次に何をやる」という見通しをもたせる。また「今日、何を上手にするか」めあてを持たせ、時間いっぱい取り組めるようにする。

② 日常生活での取り組み

- ・毎日、朝と中休み、50m走に取り組めるようにする。

Do：実践内容

1 体育活動の実践

(1) 体育専科教員と担任とのTT体制、少人数指導

いくつかの単元で、T1を担当が行い、T2を体育専科教員が行う。特に、リレー、ティーボール、水泳、ラグビーでは、3時間目くらいから、担任が全体の流れを指導し、体育専科教員が技術的なアドバイスを行うようにした。また、走り幅跳びと鉄棒の授業では、担任と指導種目を分け、半数ずつ指導することにより、子どもに多くの挑戦ができるようにした。

(2) 学習の流れ「45分間、フルに体育」

授業時間を有効に活用し、常に体を動かせるよう工夫する。

- ①指導の流れを毎時間、同じにして、子どもたちが1時間の見通しを持てるようにする。
- ②ビブス、コーン、ケンステップ等、色で指示を伝えることで、子どもの動きをスムーズにする。
- ③めあてを持たせ振り返りをさせることで、今日は何をがんばるかをわかりやすくする。(学習カードを使う)

2 毎日取り組む50m走

朝の始業前と中休みの時間に、50m走に毎日取り組み、運動の基礎づくりをしている。学習カードに色を塗る等、個人で目標を立てやすくしている。学級のカードも使い、学級全体でも取り組めるようにしている。(年間)

●工夫したこと(&苦労した点)

- ①TT指導で2時間、体育専科教員がT1で授業の流れを見せ、3時間目以降を担当にT1をしてもらい、指導力アップを図った。指導例として、指導の流れ、場の設定の工夫等をプリントにして紹介した。
- ②見合い・学び合い：走り幅跳びの学習において、跳ぶグループと測るグループに分けて行うことで、測るグループが飛んだあとアドバイスをしたり、測り方を教えあったりできた。
- ③少人数指導：走り幅跳びと鉄棒を組み合わせて、半数ずつ行った。2種目とも多くの挑戦ができ、伸びた子どもも多かった。

Check：取組の成果

- ①校内のアンケート調査の結果では、全員の先生が、「段階をおって指導していくので、子どもがいつのまにか少しずつ上手になっている」・「スモールステップの授業の流れ、見合う子が評価(合格を出す、点数化する)することでポイントが分かり、自身の動きにも生かしている」等、体育の授業の参考になったと答えた。特に、走り幅跳び、ティーボール、ラグビー等を、担任がT1で行い、指導の実践をした。
- ②学習カードを使って、「めあて・振り返り」を書かせ、運動を主体的に行わせたり、体を動かしている時間を増やしたりしてきた。校内で行っているアンケート調査の結果では、89%の子どもが「運動を一生懸命した」と、80%の子どもが「体育が好きと回答していた」。
- ③50m走は各自の学習カードも学級のカードも定着し、目標の2枚以上を達成した。

Action：今後の課題

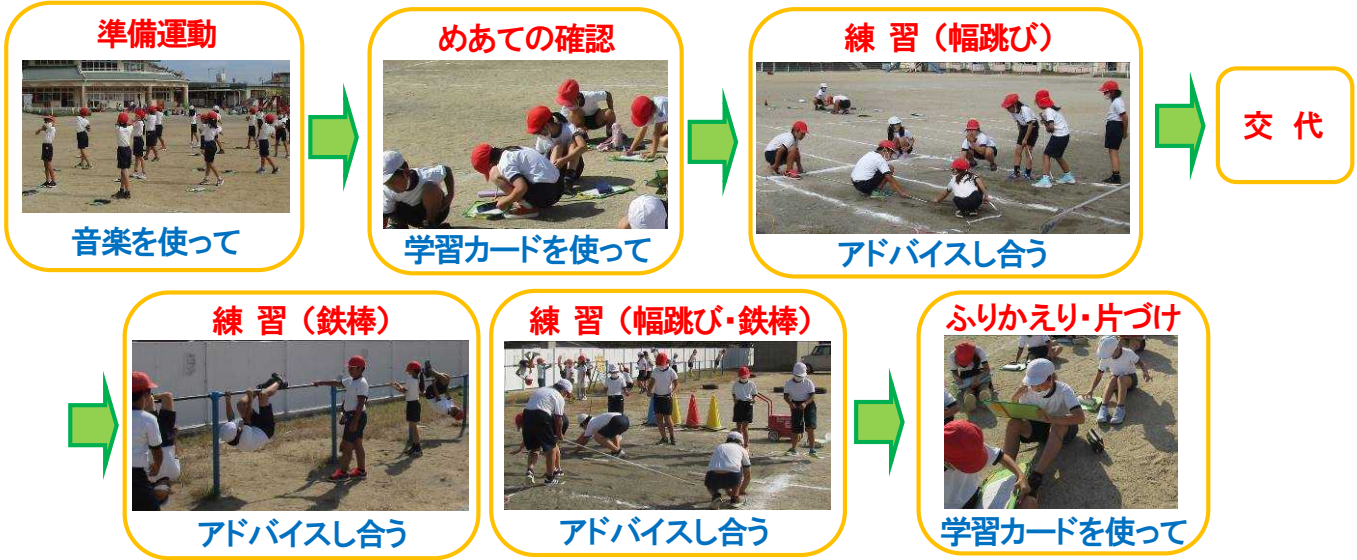
- ①体育学習の指導方法の工夫として、授業の中に子ども同士の学び合いの場を仕組むこと、ICTを活用することで、運動に対する興味、技術の向上がみられる。学び合いの仕組み方、ICTの活用法を工夫する。
- ②担任の指導力アップのため、授業の流し方、子どもへの指導の仕方等を体育専科教員と一緒にTT体制で実践していく。(指導例をプリントにして紹介していく。)
- ③50m走のさらなる充実に向け、学級の係活動や体育委員会の取り組みと関連させることも必要である。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

休み時間に、外遊びをする子どもが増え、ボール遊び・遊具だけでなく、鉄棒・なわとび・一輪車・おにごっこ・リレー等の遊びも盛んに行われるようになった。

授業の流れを同じにして、1時間の見通しを持たせ、45分間、フルに体育

走る → 準備運動 → めあての確認 → 練習（幅跳び・鉄棒）・アドバイス → 交代
→ 練習（鉄棒・幅跳び）・アドバイス → ふりかえり → 片付け



2種目（幅跳び・鉄棒）を担当と体育専科教員とで分け、数多くの挑戦ができ、記録・技も伸びた

コロナ禍の工夫

タグラグビー



兼務校の授業「タブレットを使って」

南小で「マット運動」



外部講師の授業「タグラグビー教室」

境川小で「マイケル先生」



山の手小で「プロのラグビー選手」

